

## 消息

## 政治観をテーマに

〳〳〳神島 二郎氏



去年、二年間の学部長を終えてからは、たまっていた約束の仕事  
を片付ける一方、日本人の政治観  
をテーマに研究をまとめる準備を

進めている。

「国会議員をはじめとした、右から左までのいろんな政治家にアンケート調査をするのですが、いまその調査票の質問項目を作っています。難しいのは質問のしかたなんです。こちらの質問の意図が相手にわからないようにして、しかもこちらの期待するものが得られるようにならなきゃいけない」。政治家の傾向が、従来の保守・革新の色分けではつかめなくなってきたので、そうやりにくくことはないと思います」

(立教大学教授 政治学)

## 現在は足踏み状態

〳〳〳安田 武氏



「気むずかしさのすすめ」(新潮社)が刊行になった。「遊びの輪」「芸と美の伝承」「型の文化再興」などの一連の著書で追求してきた日本近代化の見直し論の範

ちゅうに入る評論集。

「硬いタイトルはやめた方がいい、発表時反響の大きかった『気むずかしさの含著』という一文を、さらにやさしくして書名にしました。明治以来の急速な近代化のなかで見失われた、職人、芸人の世界に生きる日本人の美意識の伝統を提起してきましたが、これだけ近代化した今日、この問題をさらにどう展開するか、見当がつかず足踏み状態を続けています」

(評論家)

## 外交の多元化を…

〳〳〳中嶋 嶺雄氏



オーストラリア国立大学現代中国センター客員教授としての一年のキャンベラ生活を終え、このほど帰国した。

「私にとって未知の世界でしたが、それだけに忘れ得ぬ体験を積

むことができました。オーストラリアでは七〇年代に入って、アジアの一員の意識が強まり、日本、中国を含めアジア研究が盛んになっていますが、日本の方はどうでしょうか。オーストラリアの片思い、の感じが強いですね。いま中国、中国というが、もっと外交の多元化が必要です」と南半球からみた北半球について語る。

「中ソ対立と現代」(中央公論社)が近く発刊の予定。

(東京外語大教授)